法政大学小金井キャンパス

教職課程センター通信「こがねい」

～ GREAT TEACHER への道 ～

西館 B1 kkck@ml.hosei.ac.jp No.34 01/Jan/2025

12 月を振り返って

12 月７日（土）に、現職教員である４名の卒業生をゲストティーチャーにお招きして教育実習事前指導の一環としての位置づけで、「卒業生の話を聞く会」を開催しました。理科２名（中学・高校）数学２名（中学・高校）の計４名の卒業生たちが、教職課程選考中の３年生に向けて「教職のリアル」を語ってくれました。形式としては学生の皆さんに４グループに分かれてもらい、卒業生がローテーションしながら各グループで質問を受けて答えていく、という形式でした。学生たちの興味関心は非常に多岐にわたり、給与面や待遇面、福利厚生や職員室の雰囲気、生徒との関係性など様々でした。

教員 OB としては、大学生たちが教育実習でいきなり現場に出て戸惑う姿を多く見てきたので、実習前に現場の雰囲気を感じておくことは、とても有意義であると感じています。昨今、教育実習に参加して「自分にはムリ と感じて教職を断念する学生が増えていいる」という報道を散見しますが、今のマスコミの報道には、教職の負担感にバイアスがかかりすぎているとも感じています。企業であれ役所であれ、組織で業務を進めていく以上、対人ストレスは避けられません。むしろ積極的にコミュニケーションを取る中で、ストレスをビジネスチャンスととらえるマインド形成も、社会人として必須なのではないかと考えています。教職課程センターとしても、これから教育実習に臨む学生の皆さんに、情報提供だけでなく、コミュニケーション力の育成や、マインド形成のサポートも充実させていこうと考えています。

1 月の予定

1 月は教職課程センター主催のイベントはありません。３年生対象には引き続き論文作成・添削指導を進めていきます。すでに複数回添削を受けて、スキルが身についてきている方もいますが、まだまだ主張が不十分な方もいます。１月は集中して取り組むことができるチャンスなので、ぜひ教職課程センターを利用して、各自の課題に向き合ってほしいと思います。先日お話を聞いた卒業生の皆さんも、皆この時期には論文作成に集中的に取り組んでいた人ばかりです。論文を作成することで、論理的思考力は飛躍的に向上します。また各自治体が求めている「教員像」も感じることができます。そしてこの時期に身に着けた読解力や論述力は、その後の面接でも非常に役に立つスキルとマインドとなります。しっかりと取り組んでいきましょう。

これからの理数教育について

これからの日本の理数教育で大切なことは、思考力や判断力、独創性を育む教育だといわれています。しかし残念ながら、特に現在の義務教育は、学習指導要領の縛りがあるため、「同じ年に同じ地域で生まれた子どもたちを」「一か所に集めて」「同じ教科書を使って」「同じペースで」学習を進めていくという建て付けになっています。一方で中教審答申は、「指導の個別化」「学習の個性化」を実現するように求めています。私は個人的に、現行の学習指導要領の縛りの中で編成されたカリキュラムでは、「指導の個別化」「学習の個性化」を実現させることは難しいと考えています。理由は簡単で、1 クラス 35 人の一斉授業の形態では、一人の教員が全生徒の「個別化」や「個性化」をサポートすることは不可能だからです。そこで現在小金井キャンパスで教職課程を受講し、将来数学や理科の教員を目指している皆さんに考えてほしいことは、観察や実験を通じた体験型学習の重要性です。皆さんが教育の現場に出るころには STEAM 教育の導入により、今まで以上に複数の分野の知識を組み合わせ手活用する力を育てることも求められていきます。さらに、生徒が主体的に学ぶ姿勢を育てるために、アクティブ・ラーニングも今以上に推進されていきます。これらの施策により、将来社会人になった時生徒が直面するであろう未知の状況にも対応できる力を養うことが期待されているのです。

日本の STEAM 教育は、創造力と問題解決能力の育成に大きな影響を与えています。具体的には、プログラミング教育の必修化や理数教育の強化を通じて、子どもたちが自発的に課題を発見し、解決する力を養うことを狙いとしています。

STEAM 教育が日本の教育に与える具体的なメリットは以下の通りです。

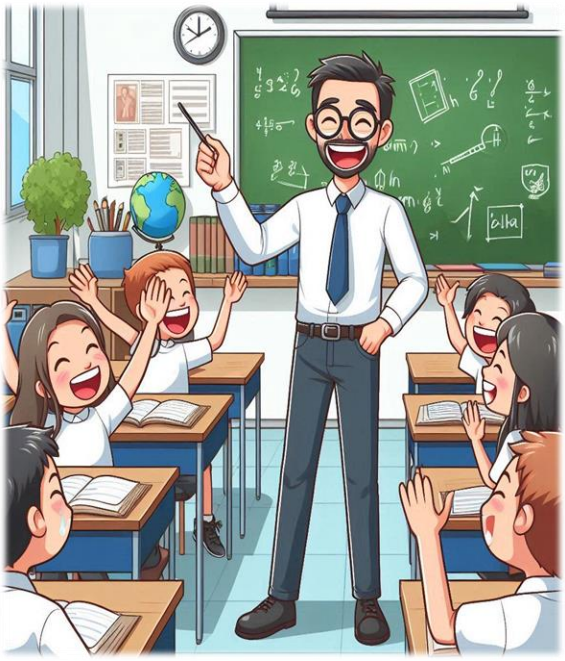
- 問題解決能力と論理的思考力の向上：自分の疑問から課題を設定し、試行錯誤を通じて効率的な解決方法を見つけるプロセスで、論理的思考力が育まれます。
- 創造力の育成：知識や技術を活用して課題解決に取り組むことで、新しい価値を創造する力が養われます。
- 広い視野と協働性の向上：横断的・協同的な学びを通じて、他者を尊重し、多様な視点を持つ力が培われます。

※ STEAM 教育とは、「科学（Science）」「技術（Technology）」「工学（Engineering）」「芸術・リベラルアーツ（Art）」「数学（Mathematics）」の 5 つの分野を統合的に学ぶ教育のことです。教科や領域を超えて、横断的な学びを深めることで、幅広く奥行きのある人格を形成することを目的としています。

教職 TOPICS　No.34　ユーモアのセンス

「授業は真剣勝負」であると言います。それは、教師と子どもたちとが知識・経験・その他持てるすべての力を総動員して、新しい気付きを得る場であるからです。新しい気づきを通して子どもたちの成長をサポートすることは、私たち教師としての使命であり責務だからです。皆さんが、教師としてまたは社会人として、真面目にかつ真剣に相手に対応することは、大事なことです。しかしそのことと、相手とのコミュニケーションを良好に保つということは、必ずしも両立しない場合があります。例えどんなに正しい意見であっても、相手に受けとめてもらわなければ伝わりません。常に正論が支持されるとは限りません。多くの人に受け入れられるためには、相手に好感を持ってもらう必要があるのです。そんな時、コミュニケーションのための潤滑剤として有効なものが「ユーモア」です。「ユーモア」を一言で表すことは難しいことですが「思わず笑いがこみあげてくるような温かみのあるおもしろさ」と表現できると思います。

たとえば授業にしても、子どもの立場からすると、学習が好きな子どもには楽しい授業でも、苦手な子どもや集中力のない子どもにとってはどうでしょうか。そういうときには、場の雰囲気を和ませたり、温かい雰囲気を演出したりすることも大切です。時にはダジャレやおやじギャグも有効な手段です。大切なことは、子どもを楽しませようとする気持ちをもって臨むことです。難しい話ばかりで子どもたちが意欲的に取り組めない時や、深刻な雰囲気になってしまう時に、子どもたちにわかりやすい言葉で、身近な話題や自身の体験談を話すことで、聞き手の子どもたちは興味や好感をもつことができます。



このユーモアのセンスは、落語家や漫才師から学ぶ点が多いですね。彼らにとって、高座や舞台は、初対面のお客様をどのように楽しませるのか、自分の存在をかけて芸を披露する場です。私たち教員も、目の前の子どもたちの知的好奇心をどうやって引き出して満足させるのか、常に考え続けていく必要があります。

教師が機知に富んだジョークを言ったり、授業の内容に関連した面白いエピソードを提供したりすることで、突然、教室の雰囲気が明るくなり、生徒たちが身を乗り出し、教室がエネルギーで満たされる瞬間があります。これがユーモアの魔法です。実は生徒たちは、教師と関わり、つながり、そして大笑いすることを切望しています。しかし、ユーモアは単なる教育のおまけではありません。実は学習プロセスを劇的に向上させる強力なツールです。複雑なトピックを親しみやすくすることで、生徒の記憶に深く刻まれる効果があります。ユーモアにはありふれた授業を記憶に残る体験に変える触媒としての役割があるのです。

ユーモアには以下に示すような機能があります。

➢ **気分を明るくする**

何よりもまず、タイミングの良いジョークや面白い逸話が、教室の雰囲気を瞬時に明るく、温かく変えることができます。

➢ **記憶力を強化する**

ユーモアの要素を加えると、記憶が定着します。たとえて言えばそれは脳にカラフルな付箋を貼り付けるようなものです。

➢ **授業への参加をうながす**

生徒は共に笑い、共に学ぶ教室が大好きです。彼らは、教師やクラスがフレンドリーで安心できると感じると、自ら積極的に授業に参加するようになります。ユーモアのある教師はただ教えているだけではありません。彼らは安心感やインスピレーションを与えることで、生徒のやる気を引き出しているのです。

➢ **不安を軽減する**

実は授業で指導すべき内容のすべてが、簡単に達成できるわけではありません。しかし、ユーモアを散りばめることで、生徒たちに複雑なテーマを身近に感じさせることができます。不安な気持ちが減ることで、生徒たちは新しいアイデアを積極的に発信するようになります。

➢ **仲間意識を育てる**

ユーモアは教師の人間性を高めてくれます。教師と生徒の間の溝を埋め仲間意識を育みます。笑いを共にした人間関係は、良好になるのです。

➢ **集中力を維持する**

今日では、アニメや動画、など生徒の日常生活の中には、生徒を学習から遠ざけようとするものが無数にあるため、生徒の興味関心を維持するのは大変な作業です。ただし、ジョークや面白い話を加えることで、教師は彼らの興味関心を引き出し、学ぶ意欲を高めることができます。

このように、ユーモアは大切な精神ですが、一方で気をつけなければならないこともあります。ある種の「ユーモア」と呼ばれるものの中には、人によって不愉快、気が利いていない、つまらないと感じられるものがあります。また、独りよがりなもの、人を傷つけるもの、差別にあたるものなど、相手の人権を侵害するようなものは、「ユーモア」としての資格を持ちえません。あくまでも「相手の気持ちを考えること」こそ、ユーモア精神の基盤なのです。「もっとこのひとの話が聞きたい」と思われるように、ユーモアのセンスを磨いて、心に余裕をもって授業に臨めるように心がけでいきましょう。（いろいろと試してみましょう）

花には水が必要！　人にはユーモアが必要！